

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

《2024年3月31日現在》

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち			
							理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手		
医療科学部 学部・理学 療法学科	3人	3人	6人	1人	13人	9人	12人	1人	44人	5.0人
計	3人	3人	6人	1人	13人	9人	12人	1人	44人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定 規則 教育 内容	相当授業科 目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤	一般化学	15	石崎 智恵利	兼任
		生命のしくみ	15	長谷川 泰洋	兼任
		生活の物理	15	吉川 直志	専任
		地球環境と人間	15	木呂子 豊彦	兼任
		初年次セミナー	15	谷口 富士夫	専任
		Basic English 1	15	Rebecca Jackson	兼任
		Basic English 2	15	Rebecca Jackson	兼任
		Advanced English 1	15	Luke Stoltenberg	兼任
		Advanced English 2	15	Luke Stoltenberg	兼任
		総合英語A-1	15	山田 千聡	専任
		総合英語A-2	15	山田 千聡	専任
		総合英語B-1	15	宮崎 尚一	兼任
		総合英語B-2	15	宮崎 尚一	兼任
		初級フランス語 1	15	河脇 都美	兼任
		初級フランス語 2	15	河脇 都美	兼任
		中級フランス語	15	河脇 都美	兼任
		初級中国語 1	15	陶山 宗幸	兼任
		初級中国語 2	15	陶山 宗幸	兼任
		中級中国語	15	王 喜云	兼任
		情報処理演習 1	15	清水 真	兼任

		情報処理演習 2	15	森屋 裕治	兼任
		日本語表現法 1	15	小石川 正文	専任
		日本語表現法 2	15	小石川 正文	専任
		健康科学	15	藤巻 裕昌	兼任
		スポーツ 1	15	政岡 悟	兼任
		スポーツ 2	15	政岡 悟	兼任
		基礎生物学	15	高橋 哲也	専任
		情報処理概論	15	武岡 さおり	兼任
		基礎統計処理	15	森岡 洋	兼任
		口腔健康管理学	15	久保 金弥	専任
		ライフステージ栄養学1	8	辻 愛	専任
		基礎ゼミナール	11	竹田 徳則	専任
		基礎ゼミナール	11	石田 和人	専任
		基礎ゼミナール	10	松井 一久	専任
		基礎ゼミナール	10	荻原 久佳	専任
		基礎ゼミナール	10	玉木 徹	専任
		基礎ゼミナール	10	内藤 紘一	専任
		基礎ゼミナール	11	渡邊 潤子	専任
		基礎ゼミナール	11	中西 康祐	専任
		基礎ゼミナール	11	山鹿 隆義	専任
		基礎ゼミナール	10	長谷川 隆史	専任
		基礎ゼミナール	10	池谷 政直	専任
		基礎ゼミナール	10	岡田 誠	専任
		基礎ゼミナール	10	駒形 純也	専任
		基礎ゼミナール	10	米澤 久幸	専任
		基礎ゼミナール	10	塙 杉子	専任
		基礎ゼミナール	10	今井 あい子	専任
		基礎ゼミナール	10	加藤 芳司	専任
		基礎ゼミナール	10	山下 英美	専任
		基礎ゼミナール	10	松林 義人	専任
		基礎ゼミナール	10	藤田 高史	専任
		基礎ゼミナール	10	木村 大介	専任
		リハビリテーション医学	8	西本 裕	専任
	人間と生活	建学のこころ	15	越原 もゆる	専任

		建学のこころ	15	石田 和人	専任
		総合女性学	15	山田 千聡	専任
		キャリア入門	15	坂本 麗香	専任
		哲学の方法	15	谷口 富士夫	専任
		心のしくみ	15	大嶽 さと子	兼任
		文学の表現と鑑賞	15	出木 良輔	兼任
		歴史に学ぶ	15	遠山 佳治	兼任
		国際事情	15	三輪 昭子	兼任
		日本国憲法	15	井上 裕介	兼任
		くらしの経済	15	坂本 麗香	専任
		生活と地理	15	土井 忠之	兼任
		数学の世界	15	山本 忠	専任
		音楽	15	平澤 節子	兼任
		美術	15	松田 ほなみ	兼任
		書道	15	村瀬 秀実	兼任
		スポーツ 1	15	政岡 悟	兼任
		スポーツ 2	15	政岡 悟	兼任
		健康科学	15	藤巻 裕昌	専任
	社会の理解	国際事情	15	三輪 昭子	兼任
		くらしの経済	15	坂本 麗香	兼任
		生活と地理	15	土井 忠之	兼任
		教育学	15	佐々木 基裕	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	山本 利春	専任
		解剖学Ⅱ	15	山本 利春	専任
		解剖学実習	23	山本 利春	専任
		生理学Ⅰ	15	小野塚 實	専任
		生理学Ⅱ	15	小野塚 實	専任
		生理学実習	23	小野塚 實	専任
		人間発達学	15	後藤 永子	兼任
		基礎運動学	15	米澤 久幸	専任
		基礎運動学演習	15	松井 一久	専任
		臨床心理学	8	大橋 明	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学概論	8	西本 裕	専任
		臨床医学概論	2	仙田 典保	兼任

		病理・感染学	15	今枝 義博	兼任
		整形外科学	15	西本 裕	専任
		神経内科学	15	東 文香	兼任
		老年医学	8	野倉 一也	兼任
		精神医学	15	菅 吉基	兼任
		内科学	15	東 文香	兼任
		小児科学	8	石黒 士雄	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	竹田 徳則	専任
		リハビリテーション概論	3	西本 裕	専任
		リハビリテーション概論	1	石田 和人	専任
		生命倫理学	8	佐藤 労	兼任
		公衆衛生学	8	田中 耕	兼任
専門	基礎理学療法学	理学療法学概論	9	渡邊 潤子	専任
		理学療法学概論	5	近藤 登	兼任
		理学療法学概論	1	古田 博之	兼任
		機能障害病態論	15	石田 和人	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学	5	玉木 徹	専任
		理学療法評価学	3	渡邊 潤子	専任
		運動器障害理学療法評価学演習	15	駒形 純也	専任
		神経障害理学療法評価学演習	15	荻原 久佳	専任
		内部障害理学療法評価学演習	10	玉木 徹	専任
		内部障害理学療法評価学演習	5	西林 公子	兼任
		理学療法動作分析学演習	15	松井 一久	専任
	理学療法治療学	基礎運動療法学	15	加藤 芳司	専任
		老年期障害理学療法学	15	石田 和人	専任
		義肢装具学	8	矢澤 浩成	専任
		物理療法学	15	荻原 久佳	専任
		物理療法学演習	15	荻原 久佳	専任
		日常生活活動学	10	松林 義人	専任
		日常生活活動学	5	渡邊 良太	兼任
		理学療法治療学特論Ⅰ（健康増進・予防）	8	加藤 芳司	専任
		理学療法治療学特論Ⅱ（中枢神経障害）	8	長谷川 隆史	専任

	地域理学療法学	地域理学療法学	10	松林 義人	専任
		地域理学療法学	5	渡邊 良太	兼任
		地域理学療法学演習	10	松林 義人	専任
		地域理学療法学演習	5	渡邊 良太	兼任
	臨床実習	見学実習	45	石田 和人	専任
		理学療法評価学実習	180	石田 和人	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習：一般病院・施設の見学	1 年後期	理学療法学概論	1 年後期
		リハビリテーション概論	1 年後期
		日常生活活動学	1 年後期
理学療法評価学実習	2 年後期	理学療法評価学	2 年前期
		運動器障害理学療法評価学演習	2 年前期
		神経障害理学療法評価学演習	2 年後期
		内部障害理学療法評価学演習	2 年後期
		理学療法動作分析学演習	2 年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・自己評価委員会
委員名（委員長）	学長
組織の開催頻度	1年に4回
組織の取り組み内容	- 学生による授業評価アンケートの集計と分析
	- 学生による授業評価アンケートに基づく授業改善
	- 教育研究業績一覧の作成
	- 3つのポリシー達成状況に関する自己点検評価と報告
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：https://www.nagoya-aoi.ac.jp/info/hyoka.php）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	自己点検・自己評価委員会シラバス検討作業部会
	委員構成等	学生支援センター長（部会長）、各学部長、各学科長、および各学科から選出の作業部会員（各1名）
	改善の仕組みの実際	・シラバス作成のスケジュールおよび作成要領の周知徹底 ・部会員および学部長または学科長によるチェックとフィードバック

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

定期的に日本高等教育評価機構の評価を受審し、結果をホームページに公表している。自己点検・自己評価委員会を開催し、大学機関別認証評価 自己点検評価書を作成し、課題改善に努めている。